

富陽っ子のよりよい成長をめざして

～前期学校評価結果の分析と後期の方策～



野々市市立富陽小学校
校長 東原 修身

残暑厳しい折、保護者のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝いたします。

さて、1学期末にお寄せいただいた学校評価アンケートの結果とその分析、後期の方策についてお知らせいたします。

【肯定的評価の見方】 A評価「できている（そう思う）」 B評価「どちらかといえばできている（だいたいそう思う）」

△	評価項目	目標値	児童	保護者	昨年度 前期比
			A+B評価 (A評価)	（A+B評価） (A評価)	
1	自分には良いところがあると思いますか。	95%	89.8% (55.0%)	—	新規
2	ものごとを最後までやりぬこうと粘り強く取り組んでいると思いますか。	95%	91.6% (51.0%)	—	→ -1.9
3	友達と活動することは楽しいと思いますか。	95%	96.4% (84.7%)	—	新規
4	「totoru」を用いたおたよりや学校ホームページ、学校公開や授業参観などを通して、学校の様子が分かりますか。	95%	—	95.7% (56.5%)	→ +0.9
5	課題を解決するために「算数めがね」(算数の見方・考え方)を使って、考えることができますか。	95%	83.8% (40.9%)	—	新規
6	算数の授業では、相手が伝えたいことを、わかろうとして聞くことができていますか。	90%	94.7% (59.8%)	—	新規
7	算数の授業では、自分が何を伝えたいのかをはっきりさせて、相手にわかりやすく伝わるように話すことができていますか。	90%	83.6% (41.2%)	—	新規
8	相手を見て自分からあいさつや会釈ができていますか。	90%	90.5% (63.3%)	—	→ -0.7
9	子供や地域住民、見守り隊の方に、子供たちの手本となるようなあいさつができますか。	90%	—	92.5% (38.0%)	← -2.7
10	困りごとや不安があるときに、自分から解決しようとしたり、先生や学校にいる大人に相談したりすることができますか。	90%	81.1% (45.4%)	—	→ -0.6
11	行事や委員会、学級会などで、進んで考え方を話したり参加したりすることができますか。	95%	83.1% (49.0%)	—	新規
12	体育の授業で、けがをしないように気を付けながら、積極的に体を動かすことができますか。	95%	96.3% (77.2%)	—	→ +0.1

【昨年度前期比較】

↑ 5%以上プラス・100%維持
← 2%以上～5%未満マイナス

↑ 2%以上～5%未満上回る
↓ 5%以上マイナス

→ 差が2%未満

【後期の方策】

「自分には良いところがある」「やりぬこうと粘り強く取り組んでいる」「友達との活動は楽しい」について

今年度は、「子供も教職員もみんなで伸びていく」を重点目標に掲げ、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでおります。その中で、児童の「友達との活動は楽しいと思う」の項目は、目標値を上回り昨年度よりも高い結果でした。

後期も、「自ら考え、実践する子」を育成し「将来、みんなのために行動できる人」をめざし、友達と「関わながら考える」「一緒に何かを成し遂げる」といった協働的な場を意図的に設定します。そして、児童の思いや困り感に寄り添いながら、児童一人一人の良さをひきだす教育活動に教職員全員で努めて参ります。また、学校ホームページや学校連絡ツール「totoru」を今後さらに活用し、学校の日々の取組の様子やお知らせを、保護者や地域の方々によりわかりやすく確実に伝わるように発信していきます。

学習面について

児童の「算数の授業では、相手が伝えたいことをわかろうとして聞くことができている」の項目は、目標値を上回りました。しかし、「算数の授業では、自分が何を伝えたいのかをはっきりさせて、相手にわかりやすく伝わるように話すことができている」の項目は、目標値を下回りました。

後期は、児童のゴールの姿を具体的に意識した授業づくりを推進します。特に「聞くこと」を大切にした指導を継続するとともに、「伝えること」に焦点をあてた段階的な丁寧な指導に努めて参ります。そして、「相手の思いや考え方を受け止め大切にしようとする態度」「勇気を出して伝えようとする態度」「相手の言葉に感動したり共感したりする態度」といった児童の情意面も含めた良さを積極的に価値付けながら、児童一人一人の学力を高めていきます。

生活面について

児童の「相手を見て自分からあいさつや会釈ができる」と、保護者の「子供や地域住民、見守り隊の方に子供たちの手本となるようなあいさつができる」という項目は、目標値をどちらも上回りました。

後期も、教職員の率先垂範と「いつでも」「どこでも」「誰とでも」を重点とした取組を継続します。さらに、学校のあいさつ向上に関わる取組の様子を「学校ホームページ」で毎月発信していきます。

「困りごとや不安がある時に、自分から解決しようとしたり先生や学校にいる大人に相談したりすることができている」の項目は、目標値を下回りました。

後期は、日頃から子供一人一人との丁寧な関わりを積み重ね、安心して相談できる雰囲気づくりに一層努めて参ります。また、子供からの相談を待つだけではなく、表情や行動の変化にいち早く気付き、自ら声をかけて気持ちを確かめ、傾聴する姿勢をとおして子供との信頼関係を深めていきます。

学級活動・児童会活動について

児童の「行事や委員会、学級会などで、進んで考えや思いを話したり参加したりすることができている」の項目は、目標値を下回りました。

後期は、児童がお互いの思いや考え方を受けとめ合いながら、問題解決に結びついていく経験をとおして、伝え合う良さを実感できるような「伝え合う場の充実」に努めて参ります。そして、結果だけではなく努力の過程を大いに認める言葉かけを継続し、次への意欲や工夫につなげていきます。

運動について

児童の「体育の授業で、けがをしないように気を付けながら積極的に体を動かすことができている」の項目は、目標値を上回りました。

後期も、体育施設や用具の点検や整理を毎月定期的に実施し、日々の授業では、主運動につながる準備運動を行いながら児童が安全に活動できるようにします。また、石川県教育委員会が企画・運営している「スポチャレいしかわ」の「40m リレー」や「8 の字跳び」に全学級が参加し、学級で目標をもたせ意欲を喚起しながら積極的に体を動かせるようにしていきます。

保護者及び地域の皆様、今後とも本校の教育活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。